▌文章入力スピード認定試験規則 ▌

第１条　本協会は、学生、生徒ならびに卒業生、その他に対して日本語入力技能・英語入力技能を認定する。
第２条　認定する段・級は、特段・初段・１級・準１級・２級・準２級・３級・４級・５級・６級の１０種とする。
第３条　認定試験は、年４回実施する。
第４条　認定試験は、実技試験とする。
第５条　認定試験は、「文章入力スピード認定試験基準」により実施する。
第６条　認定基準に沿って認定証書を授与する。
　　なお、認定証書の再発行は行わない。（再発行は認定証明書とする）
附　則　この試験規則は、令和３年４月１日より施行する。

▌文章入力スピード認定施行細則 ▌

第１条　受験希望者は、所定の受験申込書に必要事項を記入のうえ、受験料を添えて期日までに試験会場校に提出しなければならない。
第２条　受験料は、次のように定める。（税込み）
　【一般受験料】
　　１科目　1,500円
　【特定受験料】
　　１科目　1,300円
第３条　受験票は、試験会場に持参しなければならない。
第４条　試験会場では、試験監督の指示に従わなければならない。
附　則　この施行細則は、令和４年４月１日より施行する。

▌文章入力スピード認定試験基準 ▌

■日本語

１．内　　容　　試験時間内に問題文どおりに入力する。
２．試 験 時 間　　10 分間
３．認 定 基 準　　試験時間内に入力した純字数により以下の段・級を認定する。
　特　段…2,000 文字　以上　　初　段…1,500 文字　以上
　１　級…1,000 文字　以上　　準１級……800 文字　以上
　２　級……600 文字　以上　　準２級……450 文字　以上
　３　級……350 文字　以上　　４　級……250 文字　以上
　５　級……100 文字　以上　　６　級……50 文字　以上
４．採 点 方 法　　１ミスにつき１文字減とする。（各段・各級とも同じ）
　純字数＝総字数－ミス数

■英　語

１．内　　容　　試験時間内に問題文どおりに（ストレートに）入力する。
２．試 験 時 間　　10 分間
３．認 定 基 準　　試験時間内に入力した純ストロークス（純字数）により以下の段・級を認定する。
　特　段…4,000 ストロークス　以上　　初　段…3,000 ストロークス　以上
　１　級…2,000 ストロークス　以上　　準１級…1,600 ストロークス　以上
　２　級…1,200 ストロークス　以上　　準２級……900 ストロークス　以上
　３　級……700 ストロークス　以上　　４　級……500 ストロークス　以上
　５　級……200 ストロークス　以上　　６　級……100 ストロークス　以上
４．採 点 方 法　　１ミスにつき２ストロークス減とする。（各段・各級とも同じ）
　純ストロークス＝総ストロークス－（ミス数×2）

採点規則（日本語）

◎次の文例により、規則を示す。

【文例】

日本は昔から実に環境に優しい暮らしをしていました。土や草、手作りの布や紙に囲まれていたのです。そして、それらは当然のように繰り返し使われてきました。現代は、リサイクルを声高にして叫ばれている時代ですが、日本ではもともとごく自然に行われていました。中でも和紙は、暮らしのさまざまな場面で使われており、今もその素材の素晴らしさは高く評価されています。現在、使用した紙の再生率は、世界的にも高い水準に達しています。今後はこの数字をできる限り伸ばす努力が必要だと思います。

ニッケン印刷株式会社は、再生紙技術と研究を４０年行っているＪ．Ｐａｌｍｅｒ教授に経営指導を受けながら、上記の創業者の言葉を実現すべく、努力を重ねて参ります。

	規　　則	正しい例	誤った例	ミス
1	**誤字** 問題と異なった文字が打たれた場合は、問題文の１文字について１ミスとする。	使用した紙の	私用した紙の	1
		暮らしのさまざまな	暮らしの様々な	4
		高く評価されて	たかく評価されて	1
2	**全角、半角** 数字・英字・カタカナ・記号は半角入力しないこと。 ※半角がある場合は全体で１ミス	４０ Ｊ．Ｐａｌｍｅｒ ニッケン	40 J.Palmer ﾆｯｹﾝ　※半角	1
3	**段落の始め** 問題文どおりとする。 段落の始めは必ず全角１文字分あけること。 ※その箇所ごとに１ミス	日本は昔から実に～ れていたのです。	日本は昔から実に～ ていたのです。	1
4	**段落の終わり** 問題文どおりとする。 段落の終わりは必ず改行をすること。 ※その箇所ごとに１ミス	～だと思います。 ニッケン印刷株式～	～だと思います。ニッケン印刷株式～ ※段落の終わりに改行がない ※段落の１文字目があいていない	2
5	**強制改行** 段落の終わり以外で改行をした場合は、その箇所ごとに１ミスとする。	～ました。現代は、リサイクルを～	～ました。 現代は、リサイクルを～	1
6	**飛び字・余分字** 余分なスペースを打った場合は、スペース数に関わらず１ミスとする。 問題文以外の文字を打った場合は、その文字数分をミスとする。 同じ文字を再度打った場合は、その文字数分をミスとする。	～そして、それらは できる限り伸ばす 紙の再生率	～そして、＿それらは ～そして、＿＿それらは できる限りに伸ばす 紙の再生の再生率	1 1 1 3
7	**脱字**	今後はこの数字を	今後は数字を	2
8	**転倒** 転倒した文字は、文字数分をミスとする。	必要だと 株式会社	必要とだ 会社株式	2 4
9	**全文の２度打ち**　問題文を打ち終えても２度打ちはしない。２度打ちした分は、総字数に加えない。			
10	**長音記号と読点** 長音記号「ー」とハイフン「－」の混合は許容範囲として減点はしない。 読点「、」とカンマ「，」はどちらか一方に統一してあれば許容範囲とする。 混合している場合は全体で１ミスとする。			

採点規則（英語）

◎次の文例により、規則を示す。

【文例】

Flying in the air was man's long dream. Many inventors looked on birds as a model. They planned flying machines with wings.

But the first traveler in the air was not in an airplane but in a balloon. Balloons were making journeys in the air a hundred years before the first airplane left the ground.

	規　　則	正しい例	誤った例	ミス
1	**誤って打たれた語** １語中に誤りがいくつあっても、１ミスとする。	They planned flying	They planed flying They pranned flying They pllaaned flying	1 1 1
2	**パラグラフ（段落）の始め** １タブ分（５スペース）空白をとる。 ※その箇所ごとに１ミス	Flying in the air was～ looked on birds as～ wings.	Flying in the air was～ looked on birds as～ wings.	1
3	**パラグラフ（段落）の終わり** 各パラグラフの終わりは、問題文どおりに改行する。 ※その箇所ごとに１ミス	wings. ↵ But the first traveler～	wings.__But the first traveler～ ※パラグラフの終わりが改行されていない ※パラグラフの始めの空白がない	2
4	**強制改行** パラグラフの終わり以外で改行をした場合は、その箇所ごとに１ミスとする。	Flying ～ Many inventors looked on birds as～ wings.	Flying ～ Many ↵ inventors looked on birds as～ wings.	1
5	**スペースと句読点** スペースと句読点は、前の語の一部分とみなされる。（項目 12 参照）	Flying in the air was～ looked on birds as～ wings.	Flyingin the air was～ looked on bi rds as～ wingas:	1 2 1
6	**順序を前後して打たれた場合** 語の文字や、文中の語・行がおきかえて打たれた場合には誤り（ミス）となるが、おきかえて打たれた語の中に誤りがあれば、さらに誤りとして加えられる。	Flying in the air was～ looked on birds as～ wings. ↵ But the first traveler～ but in a balloon.	Flying in the air was～ looked birds on as～ wings. ↵ But the first traveler～ in buut a balloon.	1 2
7	**打ちおとし** １語につき３ミスとする。	Flying in the air was～ looked on birds as～ wings. ↵ But the first traveler～ but in a balloon.	Flying in air was～ looked birds as～ wings. ↵ But the first traveler～ but balloon.	3 3 6
8	**繰り返し語・余分語** 余分語を挿入した場合、挿入１箇所で１ミスであるが、その中に誤りがあれば加算される。	But the first traveler～ but in a balloon. Balloons～ hundred years before～	But the first traveler～ but in in a balloon. Balloons～ hundred years bigg before～	1 2
9	**問題文の誤り**　問題文に誤りがあったときは、訂正して打っても、また原文のとおり打ってもよい。しかし打たなければ誤りとする。			
10	**最後の語** 時間がきて、１語の途中で終わったときは、その打ったところまでのストロークス数が計算される。ただし、その中に誤りがあれば、１ミスとなる。	but in a balloon. Balloons～ hundred ～ left the ground.	but in a balloon. Balloons～ hundred ～ left the goou	1
11	**全文の２度打ち**　問題文を打ち終えても２度打ちはしない。２度打ちした分は、ストロークスに加えない。			
12	**句読点の後のスペースのあけ方** A) Period (.) の後は２スペースあける。 B) Colon (:) の後は２スペースあける。 C) Exclamation Mark (!) の後は２スペースあける。 D) Question Mark (?) の後は２スペースあける。 E) Semicolon (;) の後は１スペースあける。 F) Comma (,) の後は１スペースあける。 G) Hyphen (-) 前後のスペースはあけない。 H) Abbreviation Mark (Ave.)の後は１スペースあける。(ただし Abbreviation Mark が Period を兼ねる場合は２スペースあける) 誤った場合はその箇所ごとに１ミスとする。			